

白馬だより

鈴木均（泉州労山、大町労山）

4月下旬ころから一気に暖かくなってきた。それまで家の周りに高く積み上がっていた残雪が急スピードで解けはじめたが、それでも北側はゴールデンウィーク後まで少し残っていた。4月はとにかく寒暖の差が大きく、山の雪は例年より豊富だったし、村が雨の時は山は雪で、里の花はなかなか咲かなかった。塩の道まつりに合わせて楽しませてくれる菜の花畑は開花が遅く、間に合わなかった。

家の山桜はゴールデンウィークが終わってから満開になった。桜の種類は知らないのだが、近所の桜はまだ花が咲いている。木々の芽吹きも例年より1週間以上遅いが、5月中旬になって緑の輝きが増し、野の花たちも次々と咲き始めた。ようやく春らしくなってきた、日中は家の中より外の方が暖かく感じる日が増えてきた。人々も鳥たちも活動が活発になってきた。安曇野あたりはすでに田植えが終わっているが、白馬村ではまだ一部である。

写真は、5月3日八方尾根から見た白馬主稜と代掻き馬の雪形であるが、まだ鮮明な馬の形にはなっていないし、小蓮華山の稜線近くに出てくる子馬はまだまだだ。7日はブナの巨木を見るために、新潟との県境にある鍋倉山に登った。残念ながら輝くブナの新緑にはまだ早かった。（1週間後に行った人の話では最高によかったらしい）

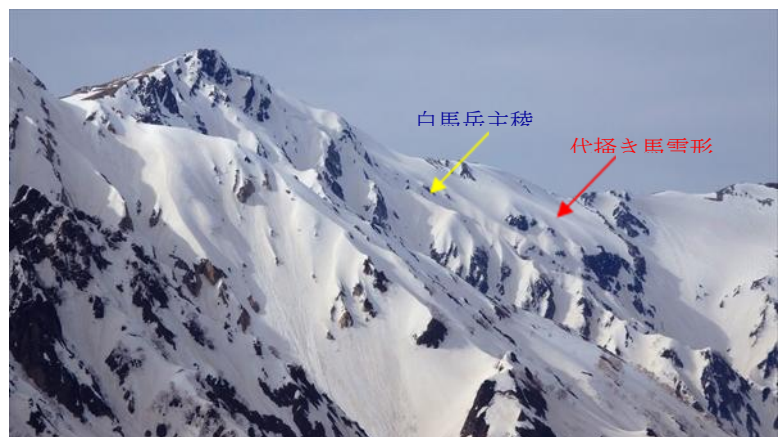
「好天連休 遭難多発」「県内過去3番目に多い23件」と報道されたゴールデンウィーク（4/29～5/7）の事故。「前半に降雪・後半に一気に雪解け」となった。白馬大雪溪の雪崩れにまき込まれた一人も、上高地徳沢園にテントを張った韓国人男性も未だに発見されていない。

自分自身も事故を起こしてしまった。4月29日が悪天のため、翌30日に小日向山（鍾温泉に行く途中の左側）に登って猿倉まで滑る。風は強かったが新雪で覆われてデブリも見えず、シール登行は快適だった。山頂から猿倉台地まであつという間に滑り降り、風が強いため、かなり下部まで滑って昼食したあと駐車場まで数十分の所まで来た。そのまま素直に滑ればいいのにショートカットして急斜面を降りたら、雪が崩れて転倒。気がついたら頭から血が流れていた。木の下に大きな岩が露出していたので、そこに衝突したと思われる。駐車場から高さにして2～30メートルしかないところだ。

持っていたバンダナとザックからタオルを出して止血。車まで歩いて仲間が運転してくれて病院へ。2カ所12針の縫合となった。顔や手は何の傷もないが、首のむち打ちと右足大腿部を打撲。救急車を呼んでいれば、自分もゴールデンウィーク遭難の1件にカウントされていただろう。数日後「事故一報」の書類を作成して送った。

2年ほど前からグレンデスキーでもヘルメットをしているの、この日に限ってヘルメットを持って行かなかった。歳とともに無茶をしないようにと自分でも戒めているつもりだが、近くの山という甘さがあったのかもしれない（兼用靴も登山靴も車に積んではいたが、スキーもわかんも積まず、結局スキーを取りに帰った）。

多くの方に迷惑や心配をかけたが、頭の痛みはなかったので3日後に泉州労山春山合宿（唐松岳）に合流し、事故1週間後の6日には抜糸することができた。



「ぼちぼちにしとかなあかん」。これが最近の実感である。

5/18 記